

最優秀賞受賞にあたって

愛知県碧南市立大浜小学校 かねこ金子てる子

私どものような浅学菲才の輩に東書教育賞最優秀賞を賜ったことは、驚倒と共に欣快の至りであり、恐懼感激する次第でございます。

さて、日本では憲法が定めるとおり、武力による紛争解決もなく戦後70年を迎えています。この70年の間に、学校現場では教師も保護者も子どもたちも戦争を知らない世代となりました。また、先の戦争を直接経験した世代の方々も高齢になり、日本社会全体として、戦争は風化の一途を辿っていると申せましょう。一方、視界をグローバルに開けば、様々な地域で武力紛争は生じ続けています。このような状況下に在って、今回受賞した報告は、「平和教育」の一方法の実践です。

偶、旧日本軍の伊号29潜水艦の艦内誌「不朽」が私どもの学校に寄贈されました。精査したところ、ドイツの航空技術資料を欧州から搬送する帰途、フィリピン沖で米潜水艦の魚雷攻撃を受け1944年に撃沈され、1名を除き106名の乗組員が戦死した潜水艦の乗組員が文芸作品などを寄せた艦内誌の創刊号でした。この稀覯を「平和教育」の教材として取り扱い、以って「平和教育」の方法とする目論見が今回のテーマです。

艦内誌を読み取り、ワープロ入力を経て、冊子と電子書籍に完成させ、また、乗組員家族を招聘し話を聞く機会も設けました。実物は孔版印刷であり、旧漢字、旧仮名遣いで書かれています。孔版印刷物を見た経験もなければ、旧漢字や旧仮名遣いの存在自体も知らない児童が復刻することは、途方もない根気と忍耐を要します。復刻作業の中で最も必要とされることは、何度も原文を見、文意が理解できるまで幾度でも漢字や仮名遣いを調べ直し、繰り返し読み返すことが須要の要件となることです。このことを通じて軍人の思いの深奥に精確に迫り得、児童自身が軍人一人ひとりの戦争を垣間見、戦争の一端を感じ取ることができたことが肝要な成果であり、以って「平和教育」の方法の一つになり得たと考えています。

教師と子どもたちが共に勉勵した伊号29潜水艦の艦内誌「不朽」の復刻活動を通じた平和学習は、今も北海道から九州に至るまで広がっている乗組員の遺族や希望する歴史家等に完成品を贈り届ける姿形として後継していることを啓上して擲筆します。